

水稲作で問題となるナガエツルノゲイトウは新規除草剤を含む 2 年間の除草剤体系処理で防除できる

ナガエツルノゲイトウは河川や水路や水田などに発生し、河川や水路等では通水の障害、水稲栽培では減収や収穫作業の障害を引き起こす難防除雑草です。農研機構では、公設試等と連携して水稲移植栽培期間中の除草剤体系処理によりナガエツルノゲイトウを防除する技術を開発しました。また、この技術を 2 年間継続することで、栄養繁殖し越冬する地下部まで防除できることを実証しました。

☆ 技術の概要

1. 本技術は、水稲移植後にピラクロニルを含む除草剤を処理し、再生始～草丈 5cm または草丈 35cm 以下の時期にフロルピラウキシフェンベンジルを含む除草剤を処理することでナガエツルノゲイトウを防除する技術です。既存の除草剤体系処理から本体系処理に移行することで、生産者の手取り除草などの追加的作業を必要とせず、水田内のナガエツルノゲイトウの地上部の生育を抑制できます。
2. 千葉県早期栽培地域の生産者が管理する水田（面積 5a）で、本体系処理技術（実証体系-1、-2）の防除効果を現地の慣行体系と比較すると、自然発生するナガエツルノゲイトウの地上部乾物重を 4～8%に抑制できました（図 1 左）。さらに、本体系処理を 2 年間継続することで、ほ場あたり 5 か所で深度 15 cm の土中を調査した時に、地下部を検出されない程度まで防除できました（図 1 右）。なお、これらの体系処理は水稲収量に影響を与えません。

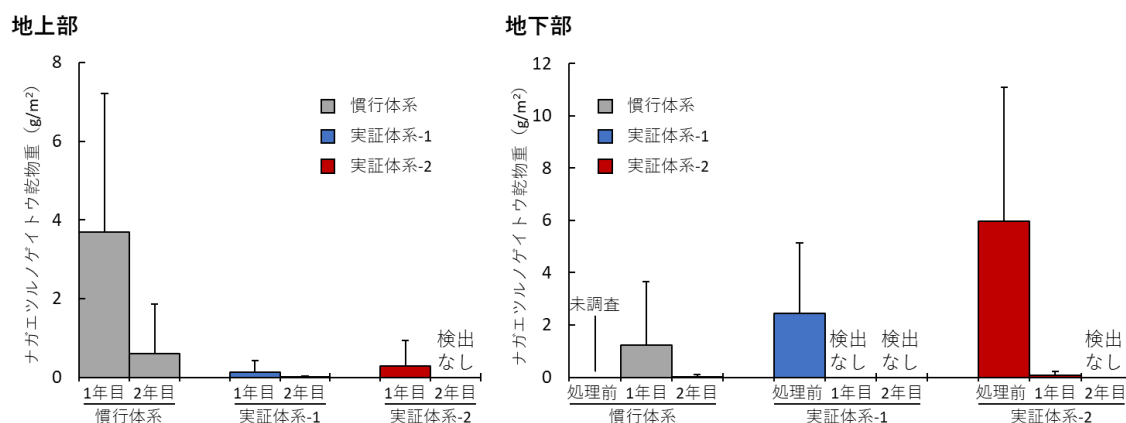


図 1 千葉県の早期栽培地域の生産者が管理する水田における 2 年間の有効除草剤による体系処理のナガエツルノゲイトウ地上部（左）と地下部（右）に対する防除効果

☆ 活用面での留意点

本防除技術は、使用する除草剤によってナガエツルノゲイトウに有効な処理時期や本種以外の雑草に対する防除効果が異なります。除草剤体系処理はナガエツルノゲイトウの生育やそのほかの雑草の発生状況を考慮して使い分けてください。

（農研機構 植物防疫研究部門 雑草防除研究領域 井原 希）